

東京学芸大学大学史資料室常設展示

Gakugei
Album
2024
Spring



東京学芸大学のあゆみ
学芸アルバム



●写真上：「昭和30年(1955年)小金井分校の風景」鈴木勇志氏画
●写真下：「1969年の自然科学研究棟とけやき広場」昭和44年撮影 創立20年誌資料(1969年)

東京学芸大学の創設とキャンパスの移り変わり

【会期】2024年4月12日(金)～6月21日(金)

【時間】[平日] 10:00～16:00

【場所】東京学芸大学附属図書館3階 大学史資料室

【問合せ先】東京学芸大学大学史資料室 [電話] 042-329-7277

[メールアドレス] shiryou@u-gakugei.ac.jp



東京学芸大学
大学史資料室
Office of Tokyo Gakugei Univ. Archives



大学史資料室常設展示によせて

東京学芸大学大学史資料室は、2021年度より附属図書館3階に事務室と閲覧室を開設して、常設展示を行っています。これは、東京学芸大学大学史資料室が設立から11年を経るなかで、大学史資料室の機能を一層高めるために取り組むものです。

大学史資料室は、本学の運営及び教育研究等に関する重要な資料、また本学の歴史に関する重要な資料をそれぞれ調査・収集し、その資料の整理、保存及び公開を行うことを任務として出発しました。これは、わが国の教員養成の中核をなしてきた本学の位置を鑑みれば、明治期以来の日本の教員養成の歩んできた歴史の資料を調査・収集し、それを保存・公開していくことと重なります。その意味で、常設展示の実現は、整理・保存してきた資料を継続的かつ安定的に公開する機会を用意できたものであり、その意義は非常に大きいといえます。

常設展示は、年間テーマを設定し、1年間で4～6月、7～9月、10～12月の三期に分けて展示内容を換えて行っています。そしてこれを2年サイクルで回し、1年目のテーマは「師範学校の歴史をふり返る」、2年目は「東京学芸大学のあゆみ」とし、戦前から戦後の本学と教員養成の歴史を辿ります。

2024年度の年間テーマは「東京学芸大学のあゆみ」で、今期は4月12日から展示を開始します。今回のタイトルは「東京学芸大学の創設とキャンパスの移り変わり」です。この展示では、東京学芸大学が新制大学としていかに創設されて、その後に発展し、現在に至るかを、資料や写真から紐解いていきます。大学の設立過程や創成期の大学の様子を実感いただけるように、大学創成期から1960年代までの小金井キャンパスの変遷について、現在のキャンパスの様子も織り交ぜつつ、諸資料を展示します。展示資料は、大学設置の過程について描いた資料『東京学芸大学発足の経緯』や木下一雄初代学長の手による入学式の式辞、大学校章入りの皿や職員章、1950～60年代の大学の風景について描かれたイラスト、小金井キャンパスの移り変わりがわかる地図や写真など、多岐に亘ります。

昨年度、東京学芸大学は、1873年に東京府小学教則講習所として設立されてから150年目の「創基150周年」を迎えました。常設展示は、東京学芸大学とその前身校、附属学校園の歴史を振り返るものです。私たちは、過去から未来へと、小さくとも確実な歩みを進めています。ぜひとも、本学学生、卒業生、教職員、そして関係者のみなさんには、常設展示に映し出される東京学芸大学の歴史とそこで学んできた学生の姿に想いをはせていただければと存じます。

2024年4月12日

東京学芸大学大学史資料室長
副学長・附属図書館長

川手 圭一

Gakugei
Album
2024
Spring

東京学芸大学のあゆみ
學藝アルバム

